

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月8日
【四半期会計期間】	第56期第3四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	コカ・コーラウエスト株式会社
【英訳名】	COCA-COLA WEST COMPANY, LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉松 民雄
【本店の所在の場所】	福岡市東区箱崎七丁目9番66号
【電話番号】	(092)641-8585
【事務連絡者氏名】	財務部長 鵜池 正清
【最寄りの連絡場所】	福岡市東区箱崎七丁目9番66号
【電話番号】	(092)641-8585
【事務連絡者氏名】	財務部長 鵜池 正清
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第3四半期 連結累計期間	第56期 第3四半期 連結累計期間	第55期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 9月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(百万円)	296,400	327,218	386,637
経常利益(百万円)	10,460	14,017	13,845
四半期(当期)純利益(百万円)	4,507	15,832	6,031
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	4,761	17,941	7,326
純資産額(百万円)	228,492	259,546	231,056
総資産額(百万円)	337,796	374,618	337,348
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	45.09	150.10	60.33
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	67.5	69.2	68.4
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	19,735	34,100	26,324
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	10,276	25,436	14,243
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	7,056	8,077	7,149
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	36,967	45,558	39,495

回次	第55期 第3四半期 連結会計期間	第56期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年 7月1日 至平成24年 9月30日	自平成25年 7月1日 至平成25年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	35.05	43.75

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、清涼飲料事業において、平成25年4月1日付の株式交換による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴い、同日以降、同社およびその子会社5社を連結の範囲に含めております。また、南九州コカ・コーラボトリング株式会社がコカ・コーラビジネスサービス株式会社の株式を所有していることにより、当社グループの株式持分比率が増加したため、コカ・コーラビジネスサービス株式会社を持分法適用の範囲に含めております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や各種政策の効果発現などにより回復傾向にありますが、海外経済の下振れ懸念が残るなど、依然として先行きが不透明な状況で推移いたしました。

清涼飲料業界におきましては、最盛期である夏場の記録的な猛暑などにより市場成長はプラスとなったものの、消費環境のデフレ改善の遅れに伴う低価格化の継続により、引き続き厳しい状況で推移しております。この現状に対応すべく、清涼飲料各社においては組織再編等を実施しております。

このような経営環境の中、当社グループは、「長期経営構想2020」の第1ステップ「革新と成長の3年」の最終年である平成25年の経営方針を、『チェーンストアチャンネルの売上高目標ならびにベンディングチャンネルのVPM（自動販売機1台当たりの販売数量）および自動販売機純増台数の目標を必ず達成する』、『物流プロセス改革とサービスモデル最適化の全面展開を必ず成功に導き、磐石な経営基盤を確立する』こととし、それによって経営目標を達成するとともに、将来に亘って成長を続け、収益力を高める基盤づくりを進めております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績の状況は、次のとおりであります。

#### <売上高>

清涼飲料事業においては、平成25年4月1日付で株式交換により南九州コカ・コーラボトリング株式会社を完全子会社化したことにより、売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ302億7千8百万円増加し、2,993億2千4百万円（前年同期比11.3%増）となりました。ヘルスケア・スキンケア事業においては、主に基幹商品の販売が好調であった影響等により、売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ5億3千9百万円増加し、278億9千3百万円（同比2.0%増）となりました。これにより、セグメント合計の売上高は、前第3四半期連結累計期間に比べ308億1千8百万円増加し、3,272億1千8百万円（同比10.4%増）となりました。

#### <営業利益および経常利益>

清涼飲料事業においては、上述した新規連結会社の影響に加え、グループを挙げて取り組んでいるコスト削減等により、営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ32億1千9百万円増加し、93億6千万円（同比52.4%増）となりました。一方、ヘルスケア・スキンケア事業においては、積極的な広告宣伝費の投下等により、営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ3億7千4百万円減少し、39億4千2百万円（同比8.7%減）となりました。これにより、セグメント合計の営業利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ28億4千5百万円増加し、133億2百万円（同比27.2%増）となりました。また、営業利益の増加に加え、持分法による投資利益が増加したことなどにより、経常利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ35億5千6百万円増加し、140億1千7百万円（同比34.0%増）となりました。

#### <四半期純利益>

経常利益の増加に加え、南九州コカ・コーラボトリング株式会社を連結対象にしたことに伴い、当第3四半期連結累計期間において負のれん発生益144億3千8百万円を特別利益に、段階取得に係る差損55億6千7百万円を特別損失に計上したことなどにより、四半期純利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ113億2千4百万円増加し、158億3千2百万円（同比251.2%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、事業内容をより適正に表示するため、従来の「健康食品事業」のセグメント名称を「ヘルスケア・スキンケア事業」に変更しております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 清涼飲料事業

清涼飲料事業は、コカ・コーラ等の清涼飲料の製造・販売、運送業（飲料物流）、自動販売機関連事業、不動産事業、保険代理業を行っております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,993億2千4百万円（前年同期比11.3%増）となり、営業利益は、93億6千万円（同比52.4%増）となりました。

#### ヘルスケア・スキンケア事業

ヘルスケア・スキンケア事業は、主に青汁やヒアルロン酸コラーゲンなどのヘルスケア製品等やコラリッチなどのスキンケア商品等の製造・販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、278億9千3百万円（同比2.0%増）となり、営業利益は、39億4千2百万円（同比8.7%減）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況等につきましては、次のとおりであります。なお、株式交換により南九州コカ・コーラボトリング株式会社を完全子会社化したことにより、54億7千7百万円の現金及び現金同等物を受け入れております。

#### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、341億円の収入（前年同期197億3千5百万円の収入）となりました。たな卸資産および仕入債務の増減による運転資金の支出が75億5百万円減少したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ143億6千4百万円の増加となりました。

#### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、254億3千6百万円の支出（前年同期102億7千6百万円の支出）となりました。有価証券の取得および定期預金への預入による支出が125億9千9百万円増加したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ151億6千万円の減少となりました。

#### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、80億7千7百万円の支出（前年同期70億5千6百万円の支出）となりました。上述した新規連結会社の影響により、リース債務の返済による支出が増加したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ10億2千1百万円の減少となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ60億6千3百万円増加し、455億5千8百万円（前年同期比23.2%増）となりました。

### (3) 事業上および財務上の対処すべき課題

#### 当社グループの対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### 株式会社の支配に関する基本方針について

##### a. 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保・向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案についての判断は、最終的には当社の株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社は、当社株式の大量買付がなされる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、対象会社の株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討しあるいは対象会社の取締役会が事業計画や代替案等を提示するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との協議・交渉等を必要とするものなど、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、世界中の国や地域で人々に爽やかさとうるおいを届け、人々の生活スタイルの一部となっている「コカ・コーラ」ブランドを、地域社会に根付かせていくこと、「いつでもどこでも誰にでも、高品質で安心して飲んでいただける商品」をお届けできるように品質安全性に対してこだわりと情熱を持って積極的に取り組んでいくこと、お客さまの満足を徹底して追求していかうとする強い使命感を持った社員の存在を理解し、社員一人ひとりに報いるべく彼らの働きがいと生活を大切にすること、豊かな社会の実現の一助となるよう努力を続ける企業市民としての責任感をもって地域社会への貢献ならびに環境問題への積極的な取り組みを行うこと、これらを十分に理解し、ステークホルダーであるお客さま・お得意さま、株主のみならず、社員との信頼関係を維持し、ステークホルダーのみならずの期待に応えていながら、中長期的な視点に立って当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させる者でなければならないと考えております。

したがって、当社としてはこのような当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株式の大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による当社株式の大量買付に対しては必要かつ相当な対抗をすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上する必要があると考えております。

#### b. 基本方針実現のための取組み

##### (a) 基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社グループは、「飲料を通じて価値ある「商品、サービス」を提供することで、お客さまのハッピーでいきいきとしたライフスタイルと持続可能な社会の発展に貢献します」という企業理念のもと、ザ コカ・コーラカンパニーおよび日本コカ・コーラ株式会社（ザ コカ・コーラカンパニー100%出資）の戦略的パートナーとして、商品開発やテストマーケティングなどさまざまな取り組みを協働で展開し、日本のコカ・コーラビジネスの変革をリードする役割を担うとともに、ステークホルダーであるお客さま・お得意さま、株主のみならず、社員から信頼される企業作りに努めております。

清涼飲料業界においては、市場が成熟化し、大きな成長が期待できない中、清涼飲料各社間の業務提携が拡大するなど生き残りをかけた業界再編が一段と加速しており、当社を取り巻く経営環境はさらに厳しくなることが見込まれます。

このような状況の中、当社グループは、長期的な視点でグループ事業構造の変革を推進し、持続的な成長を果たすため、平成23年から平成32年までの長期経営構想ならびにその達成に向けた第1ステップとなる平成23年から平成25年までの中期経営計画を策定いたしました。「成長戦略」、「効率化戦略」、「構造戦略」の3つの基本戦略を柱として、それぞれの基本戦略を着実に実行し、中期経営計画の成長目標を達成するとともに将来に亘って成長を続け、収益力を高める基盤づくりを進めてまいります。

また、コーポレート・ガバナンス強化のため、平成11年3月に取締役会の改革および執行役員制度の導入を行っており、意思決定および経営管理機能と業務執行機能の分離を進めているほか、経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体制の確立と取締役の経営責任を明確にするために取締役の任期を1年とするなどの施策を実施しております。

また、当社の特徴として、平成18年7月に経営の効率性および透明性を向上させ、企業価値ひいては株主共同の利益を増大させることを目的に、有識経験者から適切なアドバイスを受けるための経営諮問委員会を設置しております。さらに当社は現在、取締役11名中2名が社外取締役、監査役5名中3名が社外監査役であり、取締役会において、取締役の業務執行を充分監視できる体制を確立するとともに、第三者の立場からの適切なアドバイスを適宜受けております。また、取締役および監査役が、執行役員で構成される経営会議等の重要な会議にも出席し、執行役員の業務執行を充分監視できる体制を確立するとともに、業務執行上、疑義が生じた場合においては、弁護士および会計監査人に適宜、助言を仰ぐ体制を敷いております。

##### (b) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、当社株式の大量買付けが行われた際には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上のために、積極的な情報収集と適時開示に努めるとともに、必要に応じて、法令および当社定款の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

また、今後の社会的な動向も考慮しつつ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上のために、当社取締役会が買収防衛策を再導入する必要があると判断した場合には、定款の定めに従い、株主総会において株主のみならずその導入の是非をお諮りいたします。

c. 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

前記b.(a)の取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものであります。

また、前記b.(b)の取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上のために、必要に応じて、法令および当社定款の許容する範囲内で、かつ株主意思を重視した具体的方策として策定されたものであるため、当社の株主共同の利益を損なうものおよび当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(注) 当社株式の大量買付行為に関する対応策の非継続について

当社は、平成22年2月3日開催の当社取締役会において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針(会社法施行規則第118条第3号に規定されるものをいい、以下「基本方針」という。)を決定するとともに、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上のために、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み(会社法施行規則第118条第3号ロ)として、平成22年3月25日開催の当社第52回定時株主総会におけるご承認を得て、「当社株式の大量買付行為に関する対応策」(以下、本プランという。)を導入いたしました。

しかしながら、本プラン導入時とは当社を取り巻く経営環境等が変化するとともに、金融商品取引法による大量買付行為に関する整備が浸透しており、株主のみなさまが適切な判断をするために必要な時間や情報を確保するという本プランの導入目的も一定程度担保されていることから、本プラン導入の意義が相対的に低下してきていると考えられます。

このような状況を踏まえ、当社は、本プランの有効期間の満了を迎えるにあたり、本プランの取扱いについて、慎重に検討を重ねた結果、平成25年2月6日開催の取締役会におきまして、第55回定時株主総会終結の時をもって、本プランを継続しない(廃止する)ことを決議いたしました。

なお、当社は、本プランの非継続後も当社株式の大量買付けが行われた際には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上のために、積極的な情報収集と適時開示に努めるとともに、必要に応じて、法令および定款の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間では、ヘルスケア・スキンケア事業において研究開発活動を行っておりますが、少額であり特に記載すべき事項はありません。

(5) 従業員

当第3四半期連結累計期間において、清涼飲料事業における従業員数は、前連結会計年度末に比べ、1,831名増加しております。これは、主に株式交換による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴うものであります。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画していた重要な設備の新設について完了したものは次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	金額 (百万円)	完了年月
当社	各支店 ( - )	清涼飲料事業	自動販売機、クーラー取得	5,883	平成25年9月
当社	明石工場 (兵庫県明石市)	清涼飲料事業	小型大型兼用無菌PET充填設備更新	2,677	平成25年3月
当社	明石工場 (兵庫県明石市)	清涼飲料事業	大型無菌PET充填設備更新	2,784	平成25年3月

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	270,000,000
計	270,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	111,125,714	111,125,714	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数100株
計	111,125,714	111,125,714	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	111,125	-	15,231	-	108,166

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,981,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 108,876,900	1,088,769	-
単元未満株式	普通株式 267,314	-	-
発行済株式総数	111,125,714	-	-
総株主の議決権	-	1,088,769	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,800株(議決権の数18個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割 合(%)
コカ・コーラウエスト 株式会社	福岡市東区箱崎 七丁目9番66号	1,981,500	-	1,981,500	1.78
計	-	1,981,500	-	1,981,500	1.78

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	専務執行役員 経営変革室長兼キャリア 開発室長	取締役	専務執行役員 経営変革室長、キャリア 開発室担当	中村 芳範	平成25年6月17日

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）および第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,157	33,298
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 23,472	28,891
有価証券	30,702	33,820
商品及び製品	24,226	24,324
仕掛品	472	679
原材料及び貯蔵品	1,662	3,265
その他	18,131	18,543
貸倒引当金	414	446
流動資産合計	120,411	142,377
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	32,259	36,486
機械装置及び運搬具(純額)	18,487	26,007
販売機器(純額)	20,727	26,520
土地	52,208	60,100
建設仮勘定	2,245	39
その他(純額)	1,826	1,890
有形固定資産合計	127,754	151,044
無形固定資産		
のれん	44,723	42,851
その他	5,190	6,415
無形固定資産合計	49,914	49,267
投資その他の資産		
投資有価証券	25,738	17,478
前払年金費用	4,729	4,954
その他	9,277	9,961
貸倒引当金	476	466
投資その他の資産合計	39,268	31,928
固定資産合計	216,937	232,240
資産合計	337,348	374,618

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,502	18,244
1年内返済予定の長期借入金	2,517	2,517
未払法人税等	3,006	2,568
未払金	14,630	16,146
販売促進引当金	173	197
その他	6,156	10,863
流動負債合計	40,988	50,538
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	7,755	5,242
退職給付引当金	947	1,968
役員退職慰労引当金	130	142
その他	6,470	7,180
固定負債合計	65,303	64,533
負債合計	106,292	115,071
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,231	15,231
資本剰余金	109,072	109,072
利益剰余金	132,587	137,826
自己株式	25,765	4,576
株主資本合計	231,125	257,554
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	449	1,700
繰延ヘッジ損益	-	77
その他の包括利益累計額合計	449	1,623
少数株主持分	380	368
純資産合計	231,056	259,546
負債純資産合計	337,348	374,618

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	296,400	327,218
売上原価	150,088	163,763
売上総利益	146,312	163,455
販売費及び一般管理費	135,854	150,152
営業利益	10,457	13,302
営業外収益		
受取利息	61	80
受取配当金	158	181
持分法による投資利益	123	<sup>1</sup> 992
その他	402	371
営業外収益合計	746	1,625
営業外費用		
支払利息	473	455
固定資産除却損	157	157
その他	112	298
営業外費用合計	742	911
経常利益	10,460	14,017
特別利益		
負ののれん発生益	-	14,438
特別利益合計	-	14,438
特別損失		
減損損失	-	<sup>2</sup> 1,008
災害による損失	39	-
固定資産除却損	-	122
投資有価証券評価損	170	-
品質問題対策損失	611	-
経営統合関連費用	-	92
段階取得に係る差損	-	5,567
特別損失合計	821	6,791
税金等調整前四半期純利益	9,639	21,664
法人税、住民税及び事業税	2,770	3,525
法人税等調整額	2,337	2,270
法人税等合計	5,108	5,795
少数株主損益調整前四半期純利益	4,530	15,868
少数株主利益	22	36
四半期純利益	4,507	15,832

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,530	15,868
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	227	2,150
持分法適用会社に対する持分相当額	3	77
その他の包括利益合計	230	2,072
四半期包括利益	4,761	17,941
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,738	17,905
少数株主に係る四半期包括利益	22	36

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	9,639	21,664
減価償却費	15,324	17,553
減損損失	-	1,008
のれん償却額	1,982	1,987
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	15	12
退職給付引当金の増減額(は減少)	35	223
前払年金費用の増減額(は増加)	900	225
受取利息及び受取配当金	219	261
支払利息	473	455
持分法による投資損益(は益)	123	992
有価証券及び投資有価証券評価損益(は益)	170	-
固定資産売却損益(は益)	6	3
固定資産除却損	111	215
負ののれん発生益	-	14,438
段階取得に係る差損益(は益)	-	5,567
売上債権の増減額(は増加)	2,550	1,411
たな卸資産の増減額(は増加)	1,094	2,976
その他の資産の増減額(は増加)	695	236
仕入債務の増減額(は減少)	2,162	1,272
その他の負債の増減額(は減少)	858	1,068
その他	104	678
小計	24,097	37,587
利息及び配当金の受取額	216	244
利息の支払額	370	349
法人税等の支払額	4,225	3,973
法人税等の還付額	17	591
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,735	34,100
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	16,215	25,232
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	23,911	21,315
固定資産の取得による支出	17,456	16,116
固定資産の売却による収入	305	12
子会社株式の取得による支出	-	128
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	553	-
関連会社株式の売却による収入	-	6
長期貸付けによる支出	346	1,130
長期貸付金の回収による収入	344	495
定期預金の預入による支出	1,765	5,348
定期預金の払戻による収入	380	815
その他	11	127
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,276	25,436

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	2,538	2,513
自己株式の取得による支出	1	3
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	4,098	4,282
少数株主への配当金の支払額	33	35
その他	384	1,243
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,056	8,077
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,403	585
現金及び現金同等物の期首残高	34,564	39,495
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	5,477
現金及び現金同等物の四半期末残高	36,967	45,558



## 【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

### （連結の範囲の重要な変更）

平成25年4月1日付の株式交換による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴い、同日以降、同社およびその子会社5社を連結の範囲に含めております。

### （持分法適用の範囲の重要な変更）

平成25年4月1日付の株式交換による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴い、同日以降、同社を持分法適用の範囲から除外しております。

また、南九州コカ・コーラボトリング株式会社がコカ・コーラビジネスサービス株式会社の株式を所有していることにより、当社グループの株式持分比率が増加したため、コカ・コーラビジネスサービス株式会社を持分法適用の範囲に含めております。

## 【会計方針の変更】

・会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

### （減価償却方法の変更）

第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正に伴い、平成25年1月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）および販売機器以外の有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来と同一の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ236百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載しております。

## 【追加情報】

### （重要なヘッジ会計の方法）

第2四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めたコカ・コーラビジネスサービス株式会社において、外貨建仕入債務に係る為替変動リスクを回避する目的で為替予約取引を、商品購入取引に係る商品相場変動リスクを回避する目的で商品スワップ取引を行っており、ヘッジ会計を適用しております。

#### 1. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務につきましては、振当処理によっております。

#### 2. ヘッジ手段とヘッジ方法

(1) ヘッジ手段 : 為替予約

ヘッジ対象 : 原材料輸入による外貨建仕入債務および外貨建予定取引

(2) ヘッジ手段 : 商品スワップ

ヘッジ対象 : 資材・原料の売戻価格および製品価格

#### 3. ヘッジ方針

外貨建仕入債務に係る為替変動リスクをヘッジするため、為替予約取引を行っております。また、商品購入取引に係る商品相場変動リスクをヘッジするため、商品価格スワップ取引を行っております。

#### 4. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の時価変動額とヘッジ手段の時価変動額の対応関係を確認することにより、有効性を評価しております。

## 【注記事項】

## (四半期連結貸借対照表関係)

## 1 期末日満期手形の処理方法

期末日満期手形は手形交換日をもって決済処理しております。前連結会計年度末日は金融機関の休日のため、期末日満期手形が前連結会計年度末残高に次のとおり含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形及び売掛金	20百万円	- 百万円

## 2 当座貸越契約

当社グループは、効率的に運転資金を確保するため前連結会計年度末は取引銀行7行と、当第3四半期連結会計期間末は取引銀行13行と当座貸越契約を締結しております。前連結会計年度末および当第3四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
当座貸越極度額	34,900百万円	41,500百万円
借入実行残高	-	-
差引額	34,900	41,500

## (四半期連結損益計算書関係)

## 1 持分法による投資利益

第1四半期連結会計期間において持分法適用関連会社であった南九州コカ・コーラボトリング株式会社が自己株式を取得したことに伴い、当社の持分比率が増加したことによる負ののれん発生益が1,046百万円含まれております。

## 2 減損損失

当社グループは、さらなる営業・販売機能の強化と生産性の向上を図るべく、販売・物流拠点を再編、統廃合することとし、対象拠点の建物及び構築物、土地等の固定資産につきまして、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間において、1,008百万円の減損損失を計上しております。

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	25,830百万円	33,298百万円
有価証券勘定	22,303	33,820
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	1,865	5,747
償還期間が3ヵ月を超える債券等	9,301	15,813
現金及び現金同等物	36,967	45,558

## (株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月22日 定時株主総会	普通株式	2,099	21	平成23年12月31日	平成24年3月23日	利益剰余金
平成24年8月2日 取締役会	普通株式	1,999	20	平成24年6月30日	平成24年9月3日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月26日 定時株主総会	普通株式	2,099	21	平成24年12月31日	平成25年3月27日	利益剰余金
平成25年7月26日 取締役会	普通株式	2,182	20	平成25年6月30日	平成25年9月2日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

平成25年4月1日付の株式交換による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴う自己株式の交付により、当第3四半期連結累計期間において自己株式処分差損が6,117百万円発生するとともに、自己株式が21,192百万円減少しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が137,826百万円、自己株式が4,576百万円となっております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	清涼飲料事業 (百万円)	ヘルスケア・スキンケア事業 (百万円)	合計 (百万円)
売上高			
外部顧客への売上高	269,046	27,353	296,400
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	269,046	27,353	296,400
セグメント利益	6,140	4,316	10,457

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しておりません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報

	清涼飲料事業 (百万円)	ヘルスケア・スキンケア事業 (百万円)	合計 (百万円)
売上高			
外部顧客への売上高	299,324	27,893	327,218
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-
計	299,324	27,893	327,218
セグメント利益	9,360	3,942	13,302

(注) 売上高およびセグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上高および営業利益とそれぞれ一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更」に記載のとおり、平成25年4月1日付の南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴い、同日以降、同社およびその子会社5社を連結の範囲に含めております。その影響等により、清涼飲料事業における当第3四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、前連結会計年度末に比べ、39,135百万円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(名称の変更)

第1四半期連結会計期間より、事業内容をより適正に表示するため、従来の「健康食品事業」のセグメント名称を「ヘルスケア・スキンケア事業」に変更しております。

(減価償却方法の変更)

「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正に伴い、平成25年1月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）および販売機器以外の有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来と同一の方法によった場合と比較して、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が「清涼飲料事業」で233百万円、「ヘルスケア・スキンケア事業」で2百万円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

清涼飲料事業において、平成24年から実行している「ビジネスモデルの8つの変革」に伴い、さらなる営業・販売機能の強化と生産性の向上を図るべく、物流プロセス改革に取り組んでおりますが、その一環として、販売・物流拠点を再編、統廃合することとし、対象拠点の建物及び構築物、土地等の固定資産につきまして、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間において、1,008百万円の減損損失を計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

清涼飲料事業において、平成25年4月1日付の南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化に伴い、当第3四半期連結累計期間において、14,438百万円の負ののれん発生益を計上しております。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称および事業の内容

被取得企業の名称 : 南九州コカ・コーラボトリング株式会社  
事業の内容 : 飲料・食品の製造、販売事業

## (2) 企業結合を行った主な理由

当社と南九州コカ・コーラボトリング株式会社は、平成19年3月に資本業務提携契約を締結して以来、コカ・コーラ事業におけるマーケティング活動やサプライチェーンマネジメントを中心に、協働関係を構築してまいりました。また、両社は、役員・経営幹部を含む人材交流を行うなど、業務提携の推進体制も強化してまいりました。

しかしながら、消費者ニーズの多様化や節約志向などの影響を受け、販売チャネルの変化や競合他社との販売競争が激化するなど、資本業務提携契約の締結後も、両社を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しております。

このような環境下、当社と南九州コカ・コーラボトリング株式会社は、両社ならびに両社のお客さま、お得意さまおよび株主のみなさまを含むあらゆるステークホルダーのみなさまにとって、当社による南九州コカ・コーラボトリング株式会社の完全子会社化によって、シナジー効果を最大化し、競争優位を確立することで、両社の企業価値増大を図ることが必要かつ最善であると考え、株式交換を実施いたしました。

## (3) 企業結合日

平成25年4月1日

## (4) 企業結合の法的形式

当社を株式交換完全親会社、南九州コカ・コーラボトリング株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換

## (5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	32.71%
企業結合日に追加取得した議決権比率	67.29%
取得後の議決権比率	100.00%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が、株式交換により南九州コカ・コーラボトリング株式会社の議決権の100%を取得したことによります。

## 2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年4月1日から平成25年9月30日まで

なお、南九州コカ・コーラボトリング株式会社は持分法適用関連会社であったため、平成25年1月1日から平成25年3月31日までの業績は、持分法による投資利益として計上しております。

## 3. 被取得企業の取得原価およびその内訳

企業結合直前に保有していた南九州コカ・コーラボトリング株式会社の 普通株式の企業結合日における時価	7,328百万円
企業結合日に交付した当社の自己株式の時価	15,075
取得に直接要した費用	132
取得原価	22,536

## 4. 株式の種類別の交換比率およびその算定方法ならびに交付した株式数

## (1) 株式の種類別の交換比率

南九州コカ・コーラボトリング株式会社の普通株式1株：当社の普通株式7株

## (2) 株式交換比率の算定方法

株式交換の株式交換比率の公正性・妥当性を確保するため、両社は、それぞれに、両社から独立した第三者算定機関に株式交換比率の算定を依頼することとし、当社は三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社を、南九州コカ・コーラボトリング株式会社はGCAサヴィアングループ株式会社を、株式交換比率の算定に関する第三者算定機関としてそれぞれ選定いたしました。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社は、当社については、市場株価分析、類似会社比較分析およびディスカунテッド・キャッシュ・フロー分析（以下、DCF分析という。）に基づき、南九州コカ・コーラボトリング株式会社については、類似会社比較分析およびDCF分析に基づき、株式交換における株式交換比率の算定を行っております。当社の市場株価分析については、算定基準日を平成25年2月1日とし、算定基準日の株価終値および算定基準日から遡る1週間、1ヵ月間の各期間の株価終値を基礎として分析いたしました。

これらの分析結果を慎重に検討し、また各社において両社の財務状況、業績動向等を勘案し、これらを踏まえ、両社で真摯に交渉・協議を行い株式交換比率を決定いたしました。

## (3) 交付した株式数

9,175,446株

(注) 当社が保有する南九州コカ・コーラボトリング株式会社の普通株式637,231株については、株式交換による株式の割当は行っておりません。なお、当社が保有する自己株式9,175,446株を株式交換による株式の割当に充当し、新株式の発行は行っておりません。

## 5. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損 5,567百万円

## 6. 発生した負ののれん発生益の金額および発生原因

## (1) 発生した負ののれん発生益の金額

14,438百万円

## (2) 発生原因

受け入れた資産および引き受けた負債の純額が株式の取得価額を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として処理しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	45.09円	150.10円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	4,507	15,832
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	4,507	15,832
普通株式の期中平均株式数(千株)	99,971	105,475

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年11月1日開催の取締役会において、当社グループの清涼飲料事業における構造改革の実施および希望退職者の募集ならびに当社と当社の100%子会社との合併・会社分割を行うことを決議いたしました。

(グループにおける構造改革の実施と希望退職者の募集)

1. 施策の理由

清涼飲料業界におきましては、消費者ニーズの多様化や節約志向などの影響を受け、販売チャネルの変化や競合他社との販売競争の激化が続いており、当社グループを取り巻く環境は厳しさを増しております。

当社は、このような厳しい環境においても西日本地域における競争優位を確立し、将来に亘って成長を続けていくため、グループ内で保有している機能の見直しを行い、機能の集約・再配置による業務品質の向上ならびに収益基盤の強化を図る構造改革(以下、本構造改革という。)および希望退職者の募集を実施いたします。

なお、当該施策につきましては、労働組合と現在協議しております。

2. 本構造改革に係る転籍および移籍の概要

本構造改革の対象となる機能に係る業務に従事する社員については、当該社員の個別の同意を前提として、委託先のグループ外の協力会社との間で労働契約を新たに締結(以下、転籍という。)し、あるいは集約・再配置先のグループ内の会社に労働契約を一部変更の上承継(以下、移籍という。)いたします。

- (1) 対象者 : 当社およびグループ社員
- (2) 募集人員 : (転籍) 650名程度 (移籍) 2,000名程度
- (3) 移籍・転籍日 : 平成26年1月1日より順次実施(予定)
- (4) その他 : (転籍) 規定の退職金に加え、転籍一時金を支給いたします。  
(移籍) 移籍する社員のうち給与格差が発生する社員には移籍一時金を支給いたします。

3. 希望退職者の募集の概要

グループ外に自ら活躍の場を求める社員に対して、経済的支援や、活躍の場の探索支援を中心とした希望退職者の募集を実施いたします。

- (1) 対象者 : 当社およびグループ社員
- (2) 募集人員 : 最大300名
- (3) 募集期間 : 平成25年12月1日～平成25年12月20日(予定)
- (4) 退職日 : 平成26年3月31日(予定)
- (5) 支援内容 : 規定の退職金に加え退職加算一時金を支給するとともに、希望者に対し外部の再就職支援会社による再就職支援を行うことといたします。

4. 損失の見込額

本件に伴い発生する転籍一時金、移籍一時金および退職加算一時金等の費用については、平成25年12月期決算において特別損失として計上する予定ですが、現時点では未確定であります。

## (当社と連結子会社の合併・会社分割)

## 1. 合併・会社分割の目的

当社は、平成25年4月1日付で南九州コカ・コーラボトリング株式会社を100%子会社化いたしました。当該子会社化による効果の最大化を図るべく、南九州コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併（以下、本合併という。）することといたしました。また、グループにおけるベンディングビジネスを強化するため、当社の100%子会社である西日本ビバレッジ株式会社のカップ自動販売機事業を当社に吸収分割（以下、本会社分割という。）することといたしました。本合併および本会社分割の実施により、拡大と効率化をより一層推し進めてまいります。

## 2. 本合併の要旨

## (1) 結合当事企業の名称および事業の内容

## 吸収合併存続会社

名称 : コカ・コーラウエスト株式会社  
事業の内容 : 飲料・食品の製造、販売事業

## 吸収合併消滅会社

名称 : 南九州コカ・コーラボトリング株式会社  
事業の内容 : 飲料・食品の製造、販売事業

## (2) 企業結合日

平成26年1月1日（予定）

## (3) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、南九州コカ・コーラボトリング株式会社を吸収合併消滅会社として、吸収合併し、当社は存続し、南九州コカ・コーラボトリング株式会社は解散いたします。

## (4) 結合後企業の名称

コカ・コーラウエスト株式会社

## 3. 本会社分割の要旨

## (1) 結合当事企業の名称および事業の内容

## 吸収分割承継会社

名称 : コカ・コーラウエスト株式会社  
事業の内容 : 飲料・食品の製造、販売事業

## 吸収分割会社

名称 : 西日本ビバレッジ株式会社  
事業の内容 : 飲料の販売事業

## (2) 企業結合日

平成26年1月1日（予定）

## (3) 企業結合の法的形式

当社を吸収分割承継会社、西日本ビバレッジ株式会社を吸収分割会社とする吸収分割を実施いたします。

## (4) 承継会社が承継する権利義務

吸収分割の方式により、西日本ビバレッジ株式会社がカップ自動販売機による飲料の販売に係る事業に関して有する権利義務の一部を当社に承継させ、当社がこれを承継いたします。

## 4. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理を行う予定であります。



## 2【その他】

平成25年7月26日開催の取締役会において、平成25年6月30日最終の株主名簿に記録された株主または登録質権者に対し、次のとおり当期中間配当を行うことを決議いたしました。

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| a . 中間配当による配当金の総額      | 2,182百万円  |
| b . 1株当たりの金額           | 20円       |
| c . 支払請求の効力発生日および支払開始日 | 平成25年9月2日 |

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

コカ・コーラウエスト株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡野 隆樹 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 足立 純一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐田 明久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているコカ・コーラウエスト株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、コカ・コーラウエスト株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成25年11月1日開催の取締役会において、グループの清涼飲料事業における構造改革の実施及び希望退職者の募集並びに会社と100%子会社との合併・会社分割を行うことを決議した。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。